

令和4年1月20日

令和3年度

「地域との協働による 高等学校教育改革推進事業」 全国サミット

島根県立平田高等学校 (地域魅力化型)



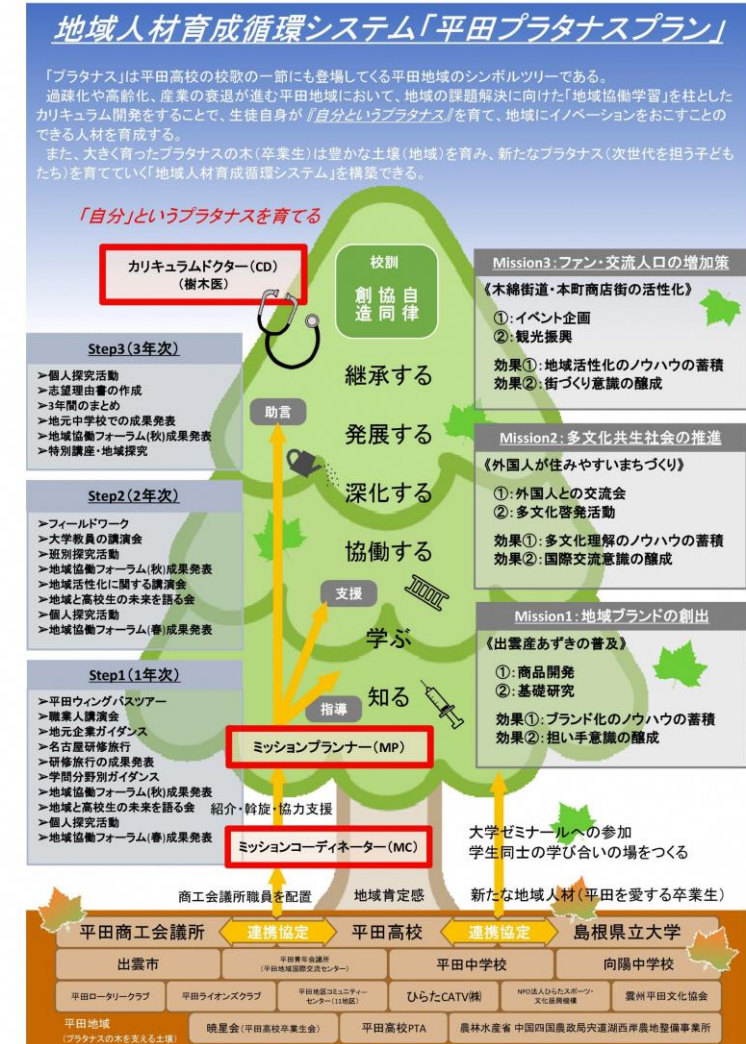
事業の概要 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」

(0) 地域協働学習開始の背景

- ①人口減少に伴う地域の危機感
- ②平田商工会議所と連携した取組の継続
「平田商工会議所創立70周年記念事業」(H30)が契機

(1) 研究開発の基本的な考え方

- ①地域の将来を担う人材は、地域で育てる
※地域にある様々な人的・物的資源を活用
- ②社会の一員としての自覚をもち、
社会に貢献しようとする人材を育てる
※地域には生きた課題が数多く存在するため、
体験的・探究的な学習が可能



カリキュラム開発に係る人的支援

～地域人材との協働～

カリキュラムドクター（CD） ミッションコーディネーター（MC）
ミッションプランナー（MP）

～平田商工会議所の関わり～

① 「ミッションコーディネーター（MC）」の派遣

平田商工会議所の職員2名 ※昨年度は3名

- ・ 2年生各クラスの地域協働学習の協力 報酬なし（予算措置なし）

② 「ミッションプランナー（MP）」の検討・紹介

- ・ 班別活動で専門知識を持った方の支援が欲しい場合



商工会議所に相談⇒人材の紹介

1年生「総合的な探究の時間」

探究学習の基礎（地域を知る）

キャリア学習

2年生「総合的な探究の時間」

班別地域課題解決学習

3年生「総合的な探究の時間」

プレゼンテーション

※「総合的な探究の時間」の学習内容と進路をつなげ、他者に伝える

校内体制

分掌ごとの役割分担を明確化
ワーキングチームによる統括

各教科の取組

教科横断を意識した研究授業（テーマ：キョウドウ）



2年生「地域協働学習」学習内容の再編成

【令和元年度・令和2年度】…クラスごとのテーマ設定

★活動内容についてある程度生徒に示して活動を支援

…**地域との連携体制構築を最優先課題とした取組**

課題

- ・担当者（副担任）の負担が重い。
- ・テーマを与えられているために自主的な活動になりにくい。



【令和3年度】

- ・クラスの枠を越えた、生徒の希望による班編成。
- ・学年一斉展開とし、学年会全員（13名）で担当。
- …**地域と連携しつつ、生徒が課題を自ら設定する探究的な取組へと徐々に移行**

【R3テーマ】

農業・小豆
船川
スイーツ開発
地域医療
多文化共生
空き家廃校利用
イベント
愛宕山
文化伝承

【今後の課題①】 テーマの設定

背景となる地域課題を見失わない大枠のテーマへ



個人の設定課題ごとに班編制を行い、**班ごとの話し合いにより**
班別地域協働学習のテーマを設定させる予定

【今後の課題②】 探究活動への伴走力

- ・ 指導者の研修の充実
- ・ 授業担当者の目線合わせ・情報共有・困りごとの相談
 - **時間割上に担当者会**を設定し、定期的な情報交換
- ・ 行事の企画運営について、校内体制はほぼ完成。
探究学習を充実させるために、カリキュラムについて検討する、
学年部を主体とした担当者が必要

「高校魅力化評価システム」の状況

令和元年～令和3年 3年間の推移 ①2019年度入学生の変化

	学習活動			生徒の自己認識			生徒の行動実績		
	1年次 (%)	3年次 (%)	差	1年次 (%)	3年次 (%)	差	1年次 (%)	3年次 (%)	差
主体性	41.8	66.3	24.5	71.2	78.4	7.2	69.0	82.3	13.3
協働性	73.7	78.5	4.8	75.6	82.6	7.0	70.3	79.9	9.6
探究性	65.3	79.1	13.8	65.6	73.9	8.3	69.0	78.6	9.6
社会性	35.7	75.1	39.4	65.4	77.3	11.9	41.3	52.2	10.9

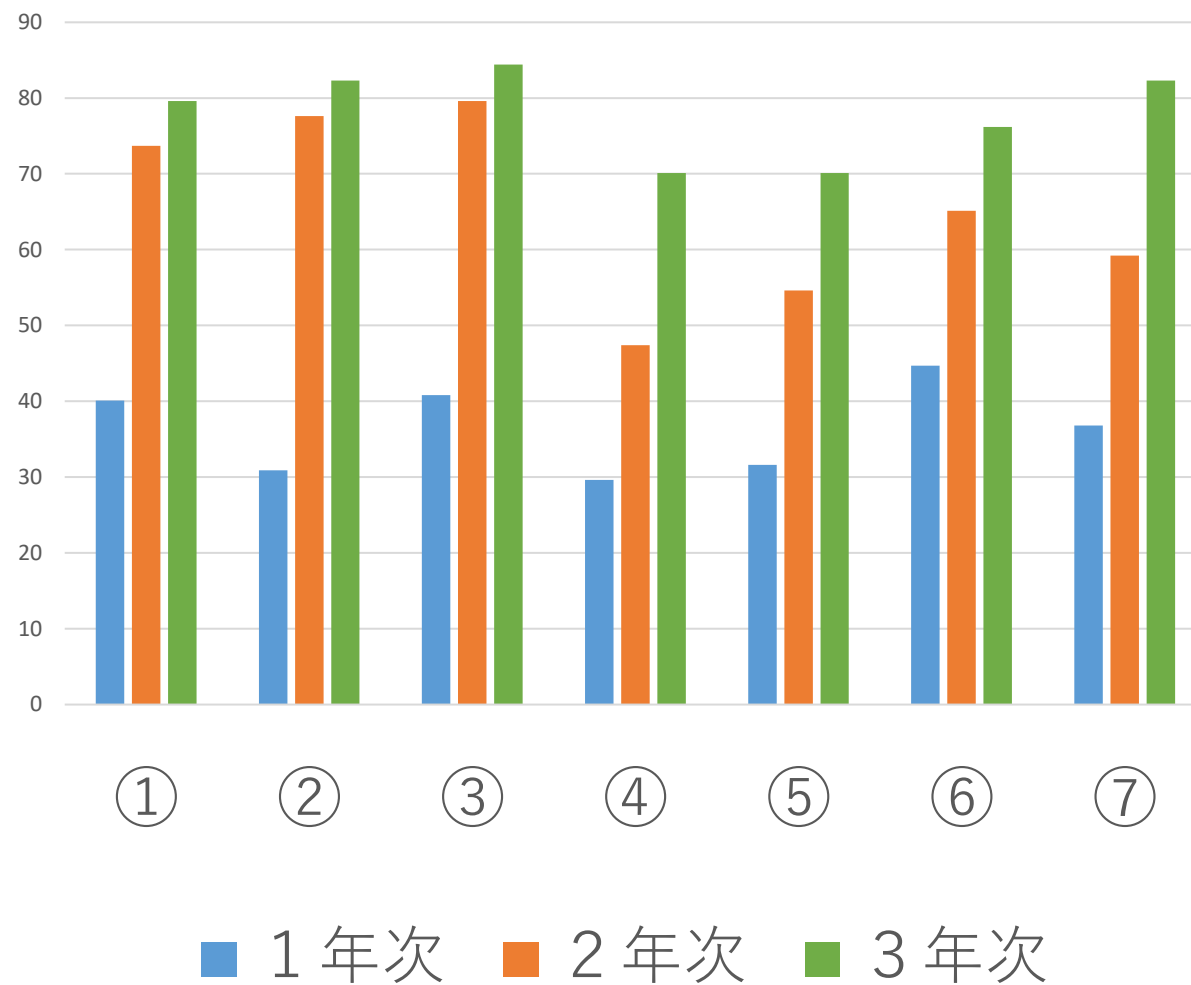
令和元年～令和3年 3年間の推移 ②学校全体の変化

	学習活動			生徒の自己認識			生徒の行動実績		
	2019 (%)	2021 (%)	差	2019 (%)	2021 (%)	差	2019 (%)	2021 (%)	差
主体性	49.4	56.6	7.2	64.2	69.3	5.1	66.2	71.2	5.0
協働性	76.5	77.4	0.9	72.8	77.9	5.1	67.6	71.2	3.6
探究性	69.2	71.2	2.0	57.7	66.3	8.6	62.0	71.1	9.1
社会性	62.6	66.4	3.8	58.7	68.7	10.0	42.2	43.8	1.6

「高校魅力化評価システム」の状況

2019年度入学生回答上昇者の割合が高い項目（30%以上）

	項目	1年次	2年次	3年次
①	地域の魅力や資源について考える	40.1	73.7	79.6
②	地域の課題の解決方法について考える	30.9	77.6	82.3
③	地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	40.8	79.6	84.4
④	将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	29.6	47.4	70.1
⑤	私に関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	31.6	54.6	70.1
⑥	地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	44.7	65.1	76.2
⑦	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	36.8	59.2	82.3



生徒の変容と今後の課題

(1) 生徒の変容

- ・生徒の**地域肯定感**が高まった。
- ・生徒の**地域貢献意識**や**社会参画意識**が高まった。
- ・生徒の**自己肯定感**が高まった。
- ・生徒が将来の自分について考える機会になった。

(2) 今後の課題

- ・学習における**探究性**を向上させる。
- ・校内体制をさらに整備し、**組織的な取組**を推進する。
- ・外部の諸機関との**相互に有効な連携**を推進する。
- ・学習の成果を**各教科・科目の学習意欲の向上**に繋げる。

終わりに ～文科省事業終了後の自走に向けて～

予算の効率的な執行

- ・ 生徒の学習活動に必要な経費を最優先に確保
 - ・・・生徒の伴走者となる地域人材に対する謝金の確保
 - ・・・対外発表会の持ち方等の見直し（中間発表は校内で実施など）

地域人材との協働による組織的な取組の推進

- ・ 学年部と連携したカリキュラム再構築
- ・ 平田商工会議所との協力体制維持

教員研修の充実による学びの質の向上

- ・ 新学習指導要領で求められる探究的な要素を地域協働学習に取り入れるためのスキルアップ